

平成28年度「教育フォーラム」の実施結果の概要

1 開催の趣旨

- 「かながわ教育月間」の取組みとして、教育イベントの参加体験等を通じて、自らができる取組みや、課題解決に向けた具体的な方策について考えるワークショップを行う。
- 平成28年度の教育フォーラムは、「かながわ人づくりコラボ2016」のテーマ「かながわの新たな学校づくりと地域づくりを考える～コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進～」につながる内容とし、それに係る取組みを進めている学校を会場校として、同校が実施する教育イベントに続けて開催した。

2 開催の状況

- (1) 日時 平成28年10月29日(土) 15:45～17:00
※ 県立秦野曾屋高等学校主催の教育イベント「SOYAフェスタ」と同日開催（教員による公開講座や中学生対象の部活動体験を実施）
- (2) 場所 神奈川県立秦野曾屋高等学校（秦野市曾屋3613-1）
- (3) 主催 神奈川県教育委員会
- (4) テーマ 「わたしが考える学校と地域のつながり～学校の視点、地域の視点～」
- (5) 参加者 48名

3 開催の内容

(1) ミニ講義（元東海大学教授／秦野市教育委員会委員長 望月 國男）

- ワークショップでの話し合いを深めるため、コミュニティ・スクールの導入の背景と必要性などについて、「コミュニティ・スクール～これからの学校と地域との連携・協働の姿～」をテーマに講義をいただいた。

- ・人口減少、少子高齢化、地域活動に参加する人の減少、近所づきあいの衰退などの状況がある中、これからの学校は、子どもたちの学びの場だけでなく、地域コミュニティの核となる場であり、学校と地域をつなぐ架け橋として、コミュニティ・スクールの取組みが期待されている。

- ・学校と地域の連携・協働の持続可能な仕組みであることが、コミュニティ・スクールのメリットである。そして学校改善にコミュニティ・スクールは非常に役立っている。地域協働をすることで、学校力を高め、地域力を高めることができる。

- ・コミュニティ・スクールの研究を進めている秦野曾屋高等学校においては、学校と地域がWin-Winの関係となることを重視して取り組んでいる。



(2) ワークショップ

- 次のテーマについて、秦野曾屋高等学校の教員、生徒、会場校のある地域の方、SOYAフェスタの参加者等により、5グループに分かれて話し合い、その結果をまとめ、発表した。
- 様々な角度から検討するため、別のグループが話し合った内容についても検討した。

【テーマ】

- ① 学校と地域が協力し合って、学校や地域をよくしていくために、
 - ア 「地域と学校が関わる機会はあるか」(現状)
 - イ 「それについて思うこと」(課題)
- ② テーマ①での話し合いを踏まえ、
 - ウ 「課題を解決するにはどうしたらよいか」(対応策)
 - エ 「地域と学校が関わることで期待されること」(期待)

【テーマ①】

学校と地域が協力し合って、学校や地域をよくしていくために、

ア 「地域と学校が関わる機会はあるか」(現状)

(主な意見)

- ・文化祭や体育祭
- ・ボランティア活動
- ・学校や地域が行う防災訓練
- ・職業体験
- ・学校開放
- ・地域の行事(市町村、自治会)



イ 「それについて思うこと」(課題)

(主な意見)

- ・地域が、公開講座等の学校の取組みに参加することで、学校のことを身近に感じられた。
- ・学校と地域がお互いのことをわかっていないのではないかな。
- ・学校の情報発信が不足している、保護者以外には情報が入らない。
- ・地域の方が学校に入りづらい。
- ・小、中学校と比べて高校は地域と関わりづらい。
- ・学校へ行こう週間のPRの仕方に工夫が必要ではないかな。
- ・現在の秦野曾屋高等学校では、地域の方が学校に来てもらいやすい取組みがされているが、それだけでなく、生徒が地域へ出て行くことも学習効果が期待できるのではないかな。

【テーマ②】

テーマ①での話し合いを踏まえ、

ウ 「課題を解決するにはどうしたらよいか」(対応策)

(主な意見)

- ・文化祭や体育祭など学校行事に、地域の人でも参加できるような内容を入れる。

- ・地域がボランティアを積極的に受け入れる。
- ・生徒・学校と地域と一緒にやる活動や企画を少しずつ増やしていく。
- ・直接話す機会を作る。
- ・広報の充実（学校だよりの発行、ホームページや回覧板等、様々な媒体による周知）
- ・地域の人材発掘の手立てを考える。
- ・イベントの時だけでなく、いつも身近にふれあえる学校を目指す。
- ・幼稚園、小学校、中学校等とも連携、交流する。
- ・コミュニティ・スクールについての学習の機会を設ける。

エ 「地域と学校が関わることで期待されること」(期待) (主な意見)

- ・地域の活性化
- ・地域の教育力を学校へ生かすこと



【発表】

- ・現状として、学校と地域が関わっていない。もっと一緒に活動ができればと思う。
- ・学校側は普段から様々な方法で地域と連携していると思っていただけれども、実際には、思ったよりも多くない。学校の取組みが地域にはあまり浸透していないのではないかと、ということに気付いた。
- ・今日の話合いのように、世代が違う人同士がかかわることで活性化する。お互いを知ること、関係づくりが大切。
- ・高校生になると、地域の方とふれあう機会が少なくなる。SOYAフェスタのような機会を増やしていくことも必要。
- ・学校と地域には認識の差があり、協働を進めるためには取組みの「双方向性」が必要。また、長続きする取組みを考えることも必要。
- ・協働を進めるためには、学校と地域をつなぐ役割を担うコーディネーターがいるとよく、その育成も必要。



(3) 講評

- ワークショップを踏まえ、ミニ講義を行った望月氏より講評をいただいた。
 - ・学校が地域について知り、学校の取組みについて理解を得るには、学校からの情報発信が重要である。
 - ・学校と地域が、実際に互いに、行き来することも大事である。
 - ・一過性の取組みでは学校と地域の協働は進まないため、取組みを行う際には、恒常性や持続性を重視する必要がある。
- 県教育委員会の具志堅委員より、本日の熱心な議論が「かながわ人づくりコラボ 2016」に非常によい形につながり、そこで話されたことが「かながわ教育ビジョン」の推進に反映され、かながわをよくすることにつながる、といった感想が述べられた。

